



We are 鶉っ子!

福井市鶉小学校
令和8年2月5日
第11号 文責：校長

学校教育目標 豊かな心を持ち たくましく生きる児童の育成
校訓(めざす児童像) 強い子 よい子 鶉の子

かつて、一億総中流と称されていた日本が、経済の停滞や非正規雇用の拡大等により、格差社会と言われるようになって久しいですが、最近の教育界では「体験格差」という言葉がよく使われるようになりました。この言葉は、「子どもたちにとって体験は大きな意味を持ち、良い体験が学力も含めた子どもたちの成長にプラスとなる。しかし生活環境等により、そういった体験ができる子、できない子の差が生じている。」そして、その「格差」をなくすために、「大人が子どもたちに手を差し伸べることが大事である。」という意味合いも含まれて使われているようです。

私は、このこと自体は間違っていないし、必要とする人に支援を行うことは大切なことだと思いつつ、少し違和感も感じています。それは、同じ体験であっても、一人一人の感じ方は異なり、その体験に大きな価値を持つ子もいれば、そうでない子もいるからです。ましてや、誰かから与えられることよりも、**自分の興味や関心に基づいた日常の体験にこそ意味があり**、大人が「この体験をさせたい」と思って、子どもに与えることは、案外子どもに響かないものだと思っているからです。(私自身の子育ての反省です・・・)つまり、与える側の一方的な思いで行う「支援」は不要な場合も多々あるということです。

「格差」という言葉には、物差しを当てて、どちらが長いか短いかを調べ、長いから恵まれている、短いからかわいそうだというような、大人事情の経済的な尺度が含まれている気がします。私は教育にその感覚を持ち込みたくないと思っています。そもそも子どもの興味や関心は大人とは異なりますし、**体験自体の価値は数量化して計ることもできません**。月謝が何万円もする習い事より、放課後に友達と目一杯遊ぶことの方が、その後につながる「体験」としても価値があったり、テーマパークで2時間並んで体験できるアトラクションより、公園の滑り台でいろんな滑り方をして遊ぶ方が思い出に残ったりするというようなことは、子どもには普通によくあることです。

「格差」を意識して生きる社会ではなく、それぞれが自分軸で生きることが出来る多様性と包摂性のある社会になっていくために、「**みんな違ってみんないい**」そして「**みんなと一緒にやってみたらもっといい**」学校を目指して、子どもを主語にした学びを一層進めたいと思っています。競うことは楽しくても、競争社会は苦しい。社会は共生社会であるべきです。



にこにこ遊び 1月15日(木)

本校では、2月に「ありがとう集会」が開かれます。ありがとう集会は、6年生への「ありがとう」の気持ちを込めて、5年生が主体となって行う行事です。そのため、15日行われたにこにこ遊びから、企画が5年生担当に替わりしました。5年生は、今までは6年生の補佐役としてにこにこグループをリードしてきましたが、いよいよ先頭に立ってリードする立場になりました。準備物を作ったり、当日指示を出したりしている様子を見ると、急に、



5年生がしっかりしてきたように感じました。計画をしていたようににこにこ遊びができた班もあれば、思うようにできなかった班もあるようです。しかし、何事もトライ＆エラー、上手くいかなかったことにも大きな意味があります。今からの2ヶ月は、5年生に限らず、全ての学年が次の学年に向けて大きく成長する時期です。今まで学校をリードしてきた6年生は、自分たちの経験も踏まえ、下級生にアドバイスをしてくれるとうれしいです。

休み時間の姿から 1月26日(月)



私は、子どもたちの活動の様子を見るのが好きです。もちろん、教師としての仕事でもありますが、子どもたちの姿から、私自身が元気をもらうことができるからです。(いい職業だと思っています)私がおもしろくなる子どもたちの姿の一つに、「休み時間に全力で遊んでいる鶺鴒っ子」の姿があります。

鶺鴒っ子は外遊びが好きな児童が多く、多少の雨ならお構いなしに外で遊びたがります。雨の日に外へ出たがる児童を止めるのに苦労するくらいです。そのように、活発な鶺鴒っ子たちなの

で、先日の雪が結構積もった1月26日の休み時間は、校庭で雪遊びをする鶺鴒っ子たちで大変賑わっていました。雪合戦、雪だるま作り、雪上サッカー、雪山から雪滑りなど、思い思いに楽しんでいる様子でした。

本校で大切にしている子どもたちの主体性と、自分で自由に過ごし方を決められる「休み時間」には非常に関連があります。何も与えていなくても勝手に自分でアクションを起こす力は、必ず主体的な学びに結びつきます。よく、「勉強は別物」と言われることがありますが、遊びに主体性を発揮できる児童は、スイッチが入れば必ず学びの主体性も発揮します。つい「遊んでばかりいないで勉強をしなさい」と求めがちですが、大人が子どもの行動をコントロールしようとする、逆に意欲を削いでしまって、マイナスになってしまう場合もあります。如何にして、子どもたちにとって良い環境(遊びも学びも自分の意思で行動選択できる環境)を作れるかが、学校教育も含めた、私たち大人の役割だと考えています。

わくわく交流デー 2月4日(水)

新年度の1年生が、進学する学校の環境に慣れ、スムーズに小学校生活をスタートすることを目的に、福井市では全小学校が同じ日にわくわく交流デーを行っています。このわくわく交流デーの学校のホスト役となるのが、現1年生です。1年生の児童は、1年前に自分たちがドキドキしながら鶺鴒小学校へ来たことを思い出しながら、この日までしっかりと練習を重ねてきました。

じゃんけん列車などの交流遊びで楽しんだ後、鶺鴒小学校の1年間の勉強や行事について、クイズを交えながら紹介しました。また、国語や算数の勉強も、グループ毎に分かれてミニ先生役で頑張っていました。1年生の1年間の成長ぶりを改めてうれしく感じました。新入生の保護者の方も、1年後の我が子の成長を想像しながら参加していただけたのではないのでしょうか。



「立春」の2月4日、来春の鶺鴒小学校のスタートが楽しみになる素敵な時間でした。

降雪時に、児童の通学路の除雪をしてくださっている地域の方がいらっしゃいます。学校が依頼したわけではなく、ご厚意でしてくださっています。本当にありがとうございます。地域の皆様に学校は支えられていることを改めて感じています。

鶺鴒小学校のHP

<https://www.fukui-city.ed.jp/uzura-e/>

ご意見ください <E-mail>

uzura-e@fukui-city.ed.jp

